



吉岡城址公園

下條村指定 文化財 史跡



大山田神社



萬松山 龍嶽寺

下條氏と吉岡城の歴史

下條氏は歴史上、古城下條氏と吉岡城下條氏に分けられますが、先祖はともに甲斐源氏の分流小笠原氏です。古城下條氏は南北朝時代の観応元年、頼氏が築城し、六代で小笠原政康により松本へ移され途絶えます。それに備え、小笠原政康は三男「康氏」を据(す)え、文明7年(1475)吉岡城を築き初代とした歴史が、吉岡城下條氏の始まりで以降、松本小笠原氏を背景に活動を極め、伊那谷では最有力な国人領主として発展します。

特に二代目家氏は、学術と治世能力に優れ、同族の松尾小笠原氏を信濃国より追放、領地と勢力拡充による活動が発展の基盤となった歴史です。その中で、領地内の学術文化と経済発展に備え、京都・奈良方面より高僧、学者、職人、商人を迎えて領地内に住ませ、その活動により発展した歴史が、現在の下條村誕生に繋がるとともに、歴史・文化の基盤にあることを学ぶことです。

やがて、戦国騒乱の時代を迎えると武田信玄支配から織田信長、そして徳川家康に従い、下條氏は勢力を維持し活動した歴史は、龍嶽寺所蔵『下條氏文書(写し)十五通』(9)が伝え、重大な時変は家康の重臣石川数正の家康離反に伴い、七代下條牛千代の時、天正15年(1587)3月改易に処せられ、吉岡城を追われ親族を頼って落ち延び下條家は没落します。しかし吉岡城は飯田城の支城として、江戸時代の元和年間まで遺りますが、吉岡を中心とする幕府領支配の拠点として代官所が置かれ、本城は取り壊されるが、城下町は周辺地域の生活基盤として幕府の指示で温存されたことが、室町時代の城郭と城下町の構造を今に伝え遺す史跡で、全国的に貴重です。

では下條氏のその後を辿ると、改易から親族のもとに潜んでいたが、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康の幕府誕生により、家康の指示で下條氏一族は、徳川御三家と旗本、さらに親藩に抱えられ子孫を今に伝える歴史は尊いのです。さらに、その子孫により「人形芝居」と「歌舞伎」が伝えられ、村の文化として現在に遺る歴史は正に、下條氏と地域の深い絆を示す歴史です。

式内社 大山田神社

大山田神社は、平安時代の延喜年間(901～923)全国に祀られる神社を纏(まと)め示した国の資料『延喜式神明帳』に載る、信濃国四十八社の最初に載る神社で、上伊那郡・下伊那郡(当時は伊那郡)には、阿智村昼神に祀る「阿智神社」と二社のみで、歴史的に重要な神社です。

社名「大山田」とは、神社の背景に聳(そび)える連山(下條山脈)を信仰の山「大山」とし、「田」はその麓の「所」を言う、神社祭祀の豊かな自然景観から社名を開いた、今より千年以上昔に祀られた神社です。

本殿の祭神は(6)「大己貴命(おおなむちのみこと・大国主命)」相殿は下條氏祭祀による「応神天皇(八幡宮)」と、「鎮西八郎為朝」が祀られる歴史ある神社です。

相殿二社殿は室町時代建立による「国指定 重要文化財」(1)です。その「鎮西八郎為朝社殿」は、子供の疱瘡除けの神信仰として、近隣県や伊那谷各地から参拝し、人びとが供えた大切な絵馬が大量に遺されています。

神社を取り巻く社叢は、古より「鎮西の杜」と慕われる、大事な神社を祀る森林で、樹齢数百年の森林樹木と300種ほどの植物が繁り、「長野県自然百選」に指定されています。

祭には伝統の「ギョウドと獅子舞」(19)が行われます。

萬松山 龍嶽寺(ばんしょうざん りょうがくじ)

臨済宗妙心寺派で、長野県最南端に位置する歴史ある寺です。創建は、戦国時代の天文5年(1535)吉岡城主であった、下條家氏の菩提寺として家氏の子時氏により、家氏と深厚のあった臨済宗の高僧、雪岫瑞秀和尚の高弟、東溪興春を開山に開かれた寺です。

山号「萬松山」とは、「自然と信仰豊かな山岳」として、全国に分布する格式豊かな寺院を示す山号です。

寺号「龍嶽」は、雪岫瑞秀和尚による下條伊豆守家氏の戒名である、「前豆州太守 龍嶽源蒼大禅定門」による寺号です。

開山以来、下條家の菩提寺として大切に守られ現在に繋がっていますが、江戸時代は本山より入山された格式ある住職が多く、大切な書籍、文献が所蔵されています。

その中で特に貴重な書籍は、雪岫瑞秀和尚と下條家氏の深厚から綴られた「教導本」、『雪岫瑞秀和尚語録』(11)です。このような書籍は龍嶽寺が伝え遺す、下條氏による文化遺産で、他の寺院には伝えられません。

さらに貴重な絵画は江戸時代の高僧、白隠恵覺の「隻履之達磨」(3)で、龍嶽寺の歴史を刻む貴重な遺品です。

そして徳川家康と下條氏の歴史資料、『下條氏文書(写し)十五通』(9)は、近代に遺された奇跡の中世史料です。萬松山龍嶽寺は、このように資料が示す寺です。



大山田神社相殿二社殿は、本殿(6)の右左に祀られる社殿で、右は「応神天皇」(八幡宮)、左は「鎮西八郎為朝」を祀る、「国指定 重要文化財」です。規模は二社殿とも、巾2.5m・奥行3.5mと大きく立派です。

この相殿二社殿の建立は、室町時代の永正3年(1506)吉岡城主下條家氏による祭祀で、社殿全体の構造は極めて繊細かつ優美な造形で、祭祀時代とその造形により、明治45年(1912)「国指定重要文化財」に指定された、飯田・下伊那地域には唯一の社殿です。

貴重な歴史は、この社殿建築に当たり

り下條家氏は、専門職人を京都より招いた歴史が、『下條由来物語』に詳細な記録が読み取れることです。

それを示すと、「下条に吉村与惣右衛門ト云大工、是モ京より吉岡開発之時分御抱也。寺社数ヶ所立候故ニ哉後ニハ吉村和泉守重吉ト被成御家之大工頭、依去下条辺之古キ大工之分ハ皆此手筋也(中略)鎮西野ノ薬師堂、八幡之社ニ棟札今有」が記録されています。

阿南町富草古城八幡の重要文化財の二社殿も、吉村氏による建立で、重要文化財社殿四棟を遺す歴史は、室町時代の京都文化による貴重な建築遺産です。



合原の地名、阿弥陀づる根に立つ、「合原阿弥陀堂」の本尊に祀られ、地域の仏教文化をたどる貴重な仏像です。

名称は「木造阿弥陀如来坐像」で、像高87cm・膝梁72cm、構造は檜の割剥造・素地仕上げ、造像された時代は平安時代後期、今より900年以上遡（さかのぼ）る時代で様式は平安時代の大仏師「定朝」の技法「定朝様」の仏像で、東海地方の仏師による地方色が表現され、「東海文化圏」の作風で作られた形状が遺る貴重な仏像として、昭和初期年代より、専門研究者により注目されていました。

専門研究者は、「この坐像のお顔に見られる甘い情感、甘美な表情はたとえばようがない。細目で螺髪整然と刻され、肉髻部も形よく、顔（目鼻）がやや下方に、納衣も柔らかく全体として姿態等すべて円やかなやさしい像形を示している、典型的な藤原末期の貴重な地方作である」の評価から、平成2年文化庁の松島健氏、専門技術者明珍昭二氏による解体修理を行い、平成5年2月18日、「長野県宝」に指定されました。

この「阿弥陀如来坐像」は合原を中心とする、地域の仏教文化の歴史を学ぶ大切な文化遺産です。



江戸時代中期の臨済宗妙心寺派の高僧、「白隠慧鶴」と萬松山龍嶽寺の住職であった、太道凡長との教導により伝え遺る、「白隠」の作品中現存する最も優れた大作書画として、平成22年3月22日、「長野県宝」に指定され、龍嶽寺の寺宝であるとともに、下條村の貴重な文化遺産です。

画面は、縦190cm・横108cmの紙面に描かれる、画題「隻履之達磨」とは、達磨が片方の靴「隻履」を手に持ち、宙を舞うように描かれている立体的な描写で、見る人の心に迫力ある画像です。

画像の上部に示される白隠自筆による漢詩、「嗟君末到金陵日 寡婦掃眉坐縁壇 君既到金陵城後 慈烏先母咽寒煙」は「隻履之達磨」に込める心情が読めます。

この品が龍嶽寺に遺された歴史は、江戸時代の中頃、宝永7年(1757)布教のため伊那地方へ下向し、開善寺に逗留した後、布教のため龍嶽寺に7日間逗留(とうりゅう)され、その間にこの作品を遺された歴史が伝えられます。

「隻履之達磨」は、仏の教えを学ぶ貴重な遺産です。



萬松山龍嶽寺墓地の最上部に祀られる古城下條氏の初代、頼氏を祀る室町時代に刻まれた五輪塔です。

現在の位置に祀られた時代は伝えられないが寺伝には、阿南町富草栗野にあった、古城下條氏の菩提寺、「開眼寺」跡に祀られていたが保護、保存を大切にしたことから、龍嶽寺へ移し祀られたと伝えています。

塔の高さ63cm・奥行33cm。石材の礎石は「花崗岩」で現在地の石材によるものと思われますが、最上部の「風輪」「空輪」は昭和20年10月、墓地周辺で起きた災害により失われ、今は「花崗岩」

の自然石で祀られますが、塔の中心部である「地輪」「水輪」「火輪」は「火成岩」で刻まれていることから、原石の地である栗野付近で刻まれ「開眼寺」に祀られたものと言われます。

下條村に五輪塔は10基程遺るが、室町時代の五輪塔はこの塔のみで、大切な歴史資料です。また同墓所には、江戸時代の正保2年(1645)に祀られた、吉岡城主下條家氏の五輪塔に合わせ、明治29年(1896)に祀られた頼氏の五輪塔の3基が、唯一下條氏の墓石として遺ります。



「山吹姫」は木曾義仲の愛妾です。「一石五輪塔」は、一つの石に刻まれる「五輪塔」で、高さ59cm・巾16cmやや菱形造、文字は正面に「梵字」・山吹姫の法名「威徳妙虎尼霊」、右側に「源義仲妾山吹□墓」右面に「南無阿弥陀仏」「朝日丹波守受永 慶長六辛丑四月八日」が刻まれる貴重な文化遺産として、山田河内の小木曾忠吉さん宅墓地に祀られる村内では唯一の塔です。

塔が祀られた歴史は、平安時代の末期平家を倒した木曾義仲は元暦元年(1181)後白河天皇より征夷大將軍を授かり「朝日將軍」と呼ばれたが、源頼朝、義経と戦い破れて近江の国に逃れ、栗津で亡くなります。

このとき山吹姫は義仲の子供を身籠っていたため、家臣の中島・小木曾・宮下氏に伴われ山田河内に落ち延び、男の子を生み山田河内に定住しました。子孫は下條氏に従い菅野に住みその一人である朝日受永は後に、徳川家康に従い旗本となり家康の代官として伊那谷を統括し、先祖である「山吹姫」供養のため、この「一石五輪塔」を祀ったもので、大切な歴史資料です。



神社の社歴と位置は前段触れました。指定の本殿は拝殿正面覆い屋中央に祀る、大山田神社祭神の祠です。

本殿の建立は、江戸時代の延享2年(1745)静岡県水窪の宮大工鈴木九郎兵衛創建の貴重な社殿です。

間口2.6m・奥行2.5m、一間社流造・柿葺で、柱・扉・羽目板・彫刻などに胡粉・紅柄墨の色彩が遺り、全体的に地方色は少ない洗練された社殿で、向拝の組物は左右に広がる木組みが、二段重ねであることから左右の相殿社殿「重要文化財」の様式を意識した社殿です。

社殿の特徴は、社殿全体が「朱」の色彩に塗られていること。社殿の色彩技法は250年ほど以前の色彩であり、羽目板部分に格子を取り付けている点は貴重です。

神社の祭式は全国的にそのころが始まりであることから、本社殿は「日光東照宮」の社殿色彩の影響があり特にこの社殿は、相殿の重要文化財二社殿の影響による構造が見られる貴重な社殿であると言われます。

祭神は、大山田神社の本尊、「大己貴命」を祀り「式内社大山田神社」の本殿に相応しい社殿です。



「入登山神社」は入野区、入野・上野原・手塚原の神社で、祭祀時代は不明だが江戸時代末期までの社名は、「高津大権現」と伝え、「白山信仰」によって開かれた民衆信仰が籠(こも)る、権現山奥ノ院の里宮神社です。

本殿建立は明治22年(1899)「諏訪立川流」の「鉋」使い名人、工匠坂田亀吉、通称「木曾亀」の建立による、立川流の特徴を充分に顕(あらわ)す繊細かつ立派な社殿です。

本殿の規模は、間口2.6m・奥行2.5m、社殿の土台は高く、大きな花崗岩の一石による精密な大型の加工礎石で、正面の龍・花龍・扉の牡丹は希少な彫刻、脇障子の仙人像は飯田の白山神社に飾る彫刻と同様希少な彫刻・蟄股(かえるまた)は波の打ち返し・上は雲・下は波・奥の柱は、象など板に繊細な細工が刻まれ、社殿の規模は大きく手の込んだ立派な社殿で立川流

の特徴を現す飯田下伊那地域を代表する、最も規模の大きな社殿です。

祭神は白山信仰の神、「大山祇命」・「木花開耶姫命」を祀り山頂に「権現山」と「奥ノ院」を祀る神社です。

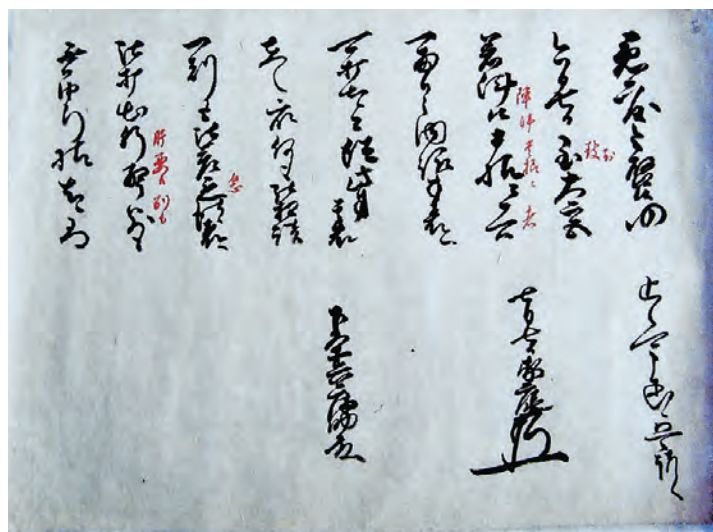


「王関神社」は仁王関地区の地名「ヤケンサワ」に祀る仁王関区の神社で、祭祀は室町時代下條氏の吉岡城築城により祀られた、歴史を持つ神社です。

本殿の建立は、江戸時代の天保15年(1844)「江戸立川流」の宮大工松沢久兵衛により建立された、村内神社の中で、特徴的な技法を伝え遺す社殿です。間口2.0m・奥行1.7mの間社流造・柿葺、床は「浜床」・社殿両脇下の彫刻は、寒山と拾得の半肉堀で、社殿の床下に刻まれるのは王関神社の特徴です。

彫刻は正面に、龍・唐獅子・牡丹・波に兎・鯉の滝登り・花菖蒲と対する花・菊紋・松・鶴・鳩、側面には、唐獅子牡丹・琵琶・菊花・紫陽花・竹に雀・鳩・梅に鶯が繊細に刻まれています。

社殿の特徴を挙げると、向拝に刻む牡丹に唐獅子は、長野県下では珍しいとともに社殿は、その様相に拘泥を持つ、「江戸立川流」の特徴を伝える、村内では唯一の貴重な社殿です。

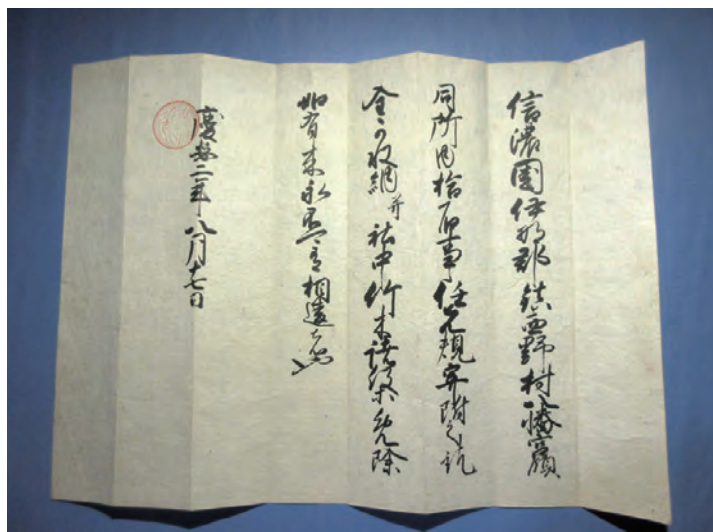


この文書は徳川家康より、下條氏に送られた文書15通の原文を写し伝え遺した資料で、萬松山龍嶽寺に保管されています。文書が遺された経緯は、大正年代九州小倉より、下條牛千代の子孫を名乗る、下條三弥と言う人が龍嶽寺を訪れ、原本を示しました。この時、龍嶽寺に逗留していた大学教授荻野由之氏によって写し遺されたと伝える貴重な、「下條氏文書写本」15通です。

記録される時代は、安土桃山時代天正10年(1582)から15年の、下條氏改易まで僅か5年間の伊那谷の動向と、下條氏の変遷を記録する貴重な歴史資料です。

初通は、天正10年7月7日、家康の甲斐国支配に向けて下條氏に諏訪攻め指示の文書から・伊那谷から木曾方面を徳川支配の活動・家康の重臣、石川数正と連携による伊那谷と木曾地方の統括成功・その功によりほぼ伊那郡全域を、下條領に与えられた文書・飯田城の普請指示・石川数正の家康離反と下條氏の人質対応等が読み取れる、飯田・下伊那地域にはない貴重な文書資料です。

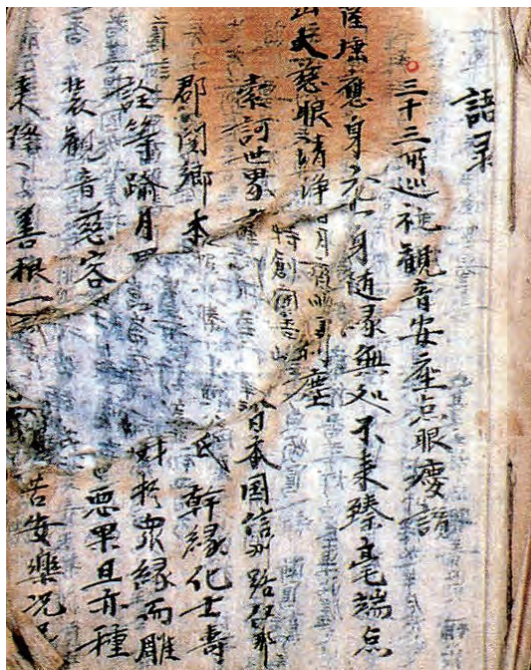
村指定 有形文化財 大山田神社 「八幡宮御朱印状 九通」



この御朱印状は鎮西の鎮西徹さん宅に保存されている、江戸時代徳川幕府より、大山田神社八幡宮へ与えられた社領地10石の寄進状です。紙面の大きさは縦47cm・横65cmの楮紙による上質な和紙に記された古文書、「奉書」です。書状は、全9通の書状ですが、それを年代順に示すと、慶安2年(1649)8月17日の将軍徳川家光朱印状を最初に綱吉、吉宗、家重、家治、家齋、家慶、家定、家茂の9通で、大山田神社八幡宮の社格を示す資料であり、これだけの書状を伝える神社は少ないです。

この社領10石がどのような歴史から与えられたのかそれは、下條氏の家臣で後に、徳川家康に仕え伊那代官を勤めた旗本、朝日受永による寺社領寄進にあります。朝日受永は家康より賜った、伊那地方の領地の内500石の土地を、伊那地方の神社や寺へ、「寺社領」として慶長6年(1601)寄進したことによるものです。鎮西家に、社領10石寄進の受永状も保存されます。

村指定 有形文化財 「雪岫瑞秀 (せっしゅずいしゅう) 和尚語録」



本書は、鎮西の萬松山龍嶽寺に伝え遺る書籍です。

「語録」とは、儒者・禅僧・指導者が解き示した教えを纏(まと)めた書物のことで、この書籍は室町時代臨済宗の高僧、「雪岫瑞秀」と吉岡城主下條家氏の30年間ほどの親交からその時代に綴られた、近思録・伝習録・臨済録に匹敵する他にはない唯一貴重な「書籍・転籍」です。

目録は「語録」「三十三所巡礼観音安座点眼慶讃」「題李及造西湖處士之図並引」「山門語」「元旦衆示」「塔婆銘」「書牘」等々多くの書籍が綴られ、下條家氏の人物像が読み取れるとともに、吉岡の圓通軒観音堂と萬松山龍嶽寺が開かれた歴史を伝える大切な、「仏教文化の遺産」で、江戸時代は寺子屋教育の資料に使われています。

雪岫瑞秀は、室町時代京都の国乱を避けて伊那谷に逃れ、永正年代(1500年代初期)知久氏、下條氏、片桐氏と深く関わり、臨済宗妙心寺派の寺、龍嶽寺、上久堅の蟠龍院、玉川寺、松川町の瑞応寺、飯田市の長久寺を開き、飯田・下伊那地域の臨済宗妙心寺派の基礎を築くとともに、下條地域の仏教文化基層に繋がっています。

村指定 有形文化財 「巖頭猛禽図 (がんとうもうきんず)」



「巖頭猛禽図」(がんとうもうきんず)とは、ごつごつした峻しい石や岩の頂上に、タカやハヤブサなど大型で飛行素早い、肉食の鳥類が勇ましく羽搏く姿を描いた絵画です。この図を描いた絵師は江戸時代、親田原平の屋号「昇」に生まれ絵画と文学を学び、飯田藩堀氏の絵師、島鷹麿に絵画を学び江戸に出て、葛飾北斎にも学んだ高名な絵師、古田鷹麿です。

図の大きさは、縦158cm・横92cmの大作で、巖頭頂上に大きく羽ばたき、獲物を捕らえようとする鋭い眼差しと嘴に、特徴的な画風を示す名作として、評価をされている古田鷹麿の文化遺産です。

古田鷹麿は絵画のほか、詩歌文学にも堪能で、江戸時代の天保年間飯田藩主の堀家に起きた、山口ふじの刃傷事件を伝記とする歌舞伎の台本、『婦士鏡湖水浮船』5巻を執筆し、地域で長く演じられた歴史が遺ります。

村指定 有形文化財 「猛虎の図」



この図は、襲い掛かる敵に向かい鋭く勢いのある、荒々しい眼差しで身構える虎の姿を現した絵画です。

図の大きさは縦163cm・横87cm、圧巻の大作です。作者は「巖頭猛禽図」の作者、古田鷹鷹により江戸時代末期、尾張藩徳川家に献上された「猛虎之図」の、下絵図であると伝える名作です。

村指定 有形文化財 伊賀塚の「経筒(きょうづつ)」



「経筒」とは、室町時代盛んに行われた巡礼の聖人が霊地を訪れ「経典」を入れて祀られた小型の銅板製の「筒」で、高さ10.3cm・直径4.6cmに蓋付です。

筒の正面に、「十羅刹女 信州住侶 行心 奉納大乘妙典六拾六部 三十番神 大永七年丁亥今月今日」の銘文を刻むほぼ完形の遺物で、このように室町時代の大永7年(1527)の紀年銘を刻む経筒は、長野県内では最も古い経筒と言われ、「経筒」は合原の塩沢博さん宅に保存されております。

伝承によると、合原の地名伊賀塚地籍の畑の中に祀られる村指定の史跡、「伊賀塚」の塚上に祀る石碑下の石槨(せっかく)に、古くから埋納されていましたが、昭和26年当時、歴史専門研究者による調査が行われ、貴重な経筒であることから屋内保存とされ現在に至っている、室町時代の遺物として遺る、村内唯一の経筒です。

伊賀塚の歴史は史跡「伊賀塚」(28)に示します。



この御祭礼図は大山田神社神の祭礼として古くから伝わる、「ギョウド」の列を主体とする、民俗芸能資料の「絵馬」です。縦65cm・横135cm、桐の板三枚寄せに描かれる繊細な彩色画です。絵馬の中心に描く「ギョウド」とは、7世紀ころ中国より伝えられた「伎楽」の「行道」を、神社の伝統祭祀として行っている図です。左側は、歌舞伎を演じる舞台の前に大勢の人びとが見物する場面、右側では幕を張り、八幡宮の神事「奉射祭」(ぶしゃまつり)を八幡宮に奉納する、弓

を射ている場面、そして余白には、神社の祭礼に訪れた多くの人びとの姿が、全面に描かれています。その中に、先祖が大山田神社と関わり深い、徳川幕府の旗本であった座光寺氏が参詣する姿が画面ほぼ中央に描かれていることも、絵馬に込める歴史であります。作成されたのは神社の覆屋(おおいや)が築かれた、天保年間で絵師は「齋木」と書かれています。

飯田・下伊那の神社に祀る、このような絵馬は他に見られない、貴重な神社祭祀の資料です。



甲子祭りとは「大黒天祭」で、この絵馬は大山田神社で行われた祭りの情景を描いた、縦69cm・横131cm、桐の板四枚寄せに、祭神と人びとの祭祀の様子が描かれている、村内唯一の甲子祭り民俗資料です。

絵馬の中央上に大黒天を祀り、左右に祭神と大黒天の讃が記されその下では、集まった人びとが祭りの酒を酌み交わし、子供たちも参加して大人たちに捧げものをしている姿、思い思いの語らいの中で、夜を通して大黒天への祭りを捧

げている様子が、和やかな表情に描かれる祭祀絵図で、絵師は古田豊斎（鷹鷹）の作です。絵馬の末尾には、「干時 元治元年弥生甲子日」と祭日が記され、この年には村内9か所の地区に「甲子」祭祀の石碑が建立されていることからして、農神としての「大黒様」、大黒天信仰がこのころ盛んであったことを示す資料です。

絵馬に記録する人びとの名前からも、祭りが広域に浸透していたことが見えてきます。

◆ 村指定 有形文化財 入登山神社 「山犬退治の図」



江戸時代の中頃入野の白又入という所で、山犬(オオカミ)を退治した若者の行動を讃え入野の人びとによって祀られた民俗資料の「絵馬」です。縦90cm・横120cmの檜板四枚寄せに、その実状が描かれています。

この事件は江戸時代の天明7年(1787)、入野の白又入に野飼いをしていた数十頭の馬に、山犬が襲い掛かり食い殺された。そのとき、近くで作業をしていた佐助と言う若者が鎌を振り上げ、「高津大権様」と唱え、オオカミと格闘の末に捉え対峙した。だが不思議なことに、佐助は傷一つ負わなかったと伝えます。

これは日ごろ信仰する、高津大権様(入登山神社古称)が佐助に力を与えてくれたと感謝し、文政9年(1826)絵馬とともに、その時佐助が使った鎌を洗い清め一所に奉納したと伝え、画面には、退治図とともに、入登山神社「山犬退治絵馬賛」を添え奉納されています。

山犬への恐怖とそれを救った神への感謝が如何に大きかったか、当時の人びとの信仰が伝わります。

村指定 有形文化財 圓通軒の「鰐口（わにぐち）」



「圓通軒」は、吉岡公民館に祀られる堂宇の名称でその誕生は、室町時代伊那地方に臨済宗寺院を創設した、臨済宗妙心寺派の高僧、雪岫瑞秀と吉岡城主、下條家氏との親交により誕生し祀られたお堂で、鰐口はその圓通軒に伝え遺る、室町時代よりの祭祀用具です。直径18cm・厚さ中央4.6cm・縁3.7cmで、両耳付が刻まれ、原型を留め保存されている貴重な品です。

表面、裏面ともに丸縁の文様の中に三本丸、二本丸の紋様が描かれ、中央に六枚笹に五ツ星、裏面に九曜が描かれそこに、「信州伊那郡関郷義岡観音堂大願慶讃天文十三年甲辰二月十八日」の銘文が刻まれる、村内では最古の鰐口であり、大切な当

時の地名を刻む資料です。

「鰐口」とは、神社仏閣のお堂の前に、布を編んだ太い綱とともにつるしてある円形の大きな鈴で、中間より下方に横長の裂け目があり、参拝者が綱を振るって打ち鳴らし礼拝する参拝用具です。

村指定 無形民俗文化財 大山田神社「ギョウド 獅子舞」



「ギョウド」とは、塩払い役を先頭に、神主・氏子役員・ヘエオイ・獅子・神輿・太鼓・笛・紅白の幣・お面・毛鑓・矛木などを持つ氏子が列をなして神社の参道を、笛太鼓を鳴らしながら静かに一周する神事です。

ギョウドの文字は本来「行道」で、仏教の法会に衆僧が列をなし、読経・散華で修行する行列と伝えます。

大山田神社の「ギョウド」は、祭祀神具で列をなし、境内を一周し神々をお祓いする神事と伝え、神仏習合信仰を示す、周辺地域にはない歴史を伝える祭礼です。

「獅子舞」は四人立ちの「鎮め獅子」で、舞はギョウドの後、ヘエオイ先導で神社の本尊、「大己貴命」神前で拝礼の後、「舞」を奉納します。

舞は、勇ましく打ち鳴らす笛太鼓に合わせ、ヘエオイが獅子を切り倒す場面で、この舞の紀元は「素戔鳴命」の「八岐大蛇退治」の場面を奉納する神事で、現在は獅子舞と呼びますがかつては「蛇舞」と伝えていた、長野県ではこの神社にのみ伝え遺る神社祭祀の儀礼です。

◆ 村指定 無形民俗文化財 神明社「屋台獅子 神楽獅子 園囃子」



神明社は山田河内に祀られる神社で、「獅子舞」には「屋台獅子」と「神楽獅子」があります。

屋台獅子の紀元はわからないが、明治頃より神社の祭の日、祇園囃子とともに地区内を練り歩く二人立ちの獅子で、獅子頭・ホロ・屋台・ヘエオイの人達で仕組み、屋台の中で笛・太鼓を演奏する曲に合わせて獅子が舞い、氏子の家々を訪ね、「ごむしん」と言って、悪魔払いと無病息災を祈る信仰による舞です。

神楽獅子は、高森町の大島山瑠璃寺系を起源とする獅子舞で、江戸時代の文久3年(1863)に始められたと伝えます。古くは塚沢神社の熊野権現・津島社の神事として奉納されていた、オンベの舞・鈴・剣を持って悪魔払いの舞を伝えています。

「祇園囃子」は、江戸時代の天保(1830)年間、川路より伝授し広めた神詣での演奏で、屋台を組みその中で六曲を演奏する、祭祀神に捧げるお囃子です。このほか、子供たちによって神前で行われる「浦安の舞」、花を飾り地区内を巡る「花屋台」があります。

村指定 無形民俗文化財 「下條歌舞伎」



「下條歌舞伎」は、長野県の地域芸能文化として重要に扱われておりますが、今日までの歴史を顧みます。

下條歌舞伎の草分けは、江戸時代の享保5年(1720)尾張徳川家に仕えた下條氏の子孫により、尾張名古屋の太夫等を吉岡に迎え、他屋で興行し伝えた歴史が最初で、盛んに取り組まれたのは安政(1850)年間、人びとの心の拠り所として繋がりを築いた取り組みです。

そして明治になると新しい地域社会構築と、養蚕業とともに盛大に発展した、村の文化であり人間社会「義理人情」の庶民教育として、若い人びとにより築いて来た教えが今日の保護、保全

活動に繋がっています。そして戦後を迎えると、人びとの復興と村の発展に向けて公民館の社会教育活動として取り組み、昭和30年代娯楽の変遷から衰退もありましたが、40年代「下條村青年歌舞伎」の発足より46年に、「下條歌舞伎保存会」が結成された経緯が、現在の下條歌舞伎活動の基礎にあることを大切に捉え、地域教育として「子供歌舞伎」の誕生に繋がっている「下條歌舞伎」を大切に伝えたいものです。

村指定 無形民俗文化財 御射山社 「穂屋の神事」



御射山社(みさやましゃ)は、室町時代下條氏によって北又に祀られた歴史ある神社です。

「穂屋の神事」とは、鎌倉時代諏訪神社信仰による、「狩猟の神」「農耕の神」「武芸鍛錬信仰」の神事で、八ヶ岳山麓の「御射山社」で行われる全国的な信仰です。

「穂屋」は穂の咲いた「ススキ」を組んで築いた小屋で、ここに籠(こも)り神事を行う諏訪神社信仰の祭祀儀礼です。

北又、御射山社「穂屋の神事」は、室町時代の文明7年(1475)、下條氏が吉岡城築城に当たり、鬼門(北の方向)を括る信仰により、御射山社を祀り地名を「北又」と名付け、「穂屋の

神事」を行ったことに始まるのが、資料『下條由来物語』に記録されています。

御射山社では、それ以来今日まで、「穂屋の神事」を継承し行っている貴重な神社祭祀の歴史で、下條村の神社祭祀文化の遺産です。

飯田・下伊那地域には、豊丘村と高森町に継承するが、歴史は不明で規模は小さく、北又の祭祀は祭祀場も広く歴史・文化と地名を伝える貴重な祭祀儀礼です。

村指定 天然記念物 大山田神社の「大杉」



大山田神社の拝殿正面南側に聳え立つ「杉」の大木で、神社の「御神木」に崇められる巨木です。樹齢は凡そ900年と推定されるが樹勢旺盛で、樹高は凡そ46m・太さは周囲7.3m・根回り11.6mで、枝梁は樹齢により枯れて切除され減少しています。

多くの神社には古来より、神の拠所として「御神木」に杉が祀られています。この大杉が何時の時代植えられたのか不明ですが、式内社大山田神社の神前祭祀木として植えられ崇められ、保護されて来た大切な樹木であることは、祭祀位置や樹齢、樹形や周辺の環境からも位置付けれる、天然記念物です。

杉は、日本の特産樹木の一つで全国各地に巨樹、喬木が繁るが、天然のものは少なく植樹された樹木が多い。

飯田・下伊那地域には大山田神社のほか、根羽村と飯田市立石に、御神木として巨木が繁ります。

村指定 天然記念物 萬松山龍嶽寺の「欒（いちい）」



龍嶽寺本堂の門前に繁る古木です。樹高7m・太さ根回り2.8m・目通り周囲2.2mで四方に枝が茂る、樹齢は凡そ400年と推定されています。

「いちい」の植生は、本州中部より北部地方の深山に自生し、阿智村浪合には自然木が繁殖している環境です。

しかし下條村地域には自然木はなく、確認される木は3本ですべて、信仰により植えられたものです。

その信仰とは、「いちい」の名称は昔、神職の持つ祭礼用具の笏（しゃく）を、この木材より造ったことから、「正一位」に因んで付けられた名称であると言われます。

龍嶽寺の「いちい」が何時の時代、どのような経緯で植えられたのか伝承は言われますが、天然記念物として大切です。

村指定 天然記念物 上ノ平の「箒木」



上の平は、菅野地区の仁王関地域と境する位置にある広い水田地帯の地名で、周囲は雑木が繁る山林です。

「箒木」(ほうきぎ)は、その林の中に繁る、一株の「桧」から4本の古木が高く延び、遠方より眺めると「箒」の形に見えるところから、信仰の樹木名称として呼ばれている、歴史を伝える天然記念物です。

高さ凡そ18m・根本の太さ周囲7.7mの地上1.5m位置で、太さ周囲3.0m・2.5m・2.2m・80cmの4本に別れ、その1m上部で多数枝を茂らせている特徴的な樹形で、樹齢700年と推定されます。

この「箒木」は、吉岡城築城の歴史が籠められる祭祀木で根元に、下條氏が吉岡城築城のとき祀られた、「子之神社湯立跡」とする、「天白社」(山の神)が祀られる歴史遺跡の御神木です。

「子之神社」は現在菅野区の神社に祀られています。

村指定 天然記念物 吉岡城址の「百日紅」



この「サルスベリ」は、吉岡城址本曲輪の南側先端部、二曲輪との境堀端に繁り、薄茶色の樹皮で細かく折れ曲がる枝を茂らせている巨木です。

樹高7m・太さ2mで5本の幹により、東西南北に枝を茂らせる樹形で、樹齢は推定400年です。

原産は中国の落葉高木で、通常は観賞用に庭園などに植樹される樹木です。夏から秋にかけて枝先に、紅色の鮮やかな花を長い間咲かせることから、「百日紅」とも呼ばれ親しまれている、地域の観賞木でもあります。

この「サルスベリ」が、いつごろこの場所に植えられたか伝えられていませんが、村内には、この樹木の外にない、大事な天然記念物です。

村指定 史跡 京野塚「山吹姫の塚」



京野は山田河内の地名、「三墓の原」南側裾の中島方向に広がる小高い山で、昔は山全体を「墓」と信仰されていた場所の地名です。

「山吹姫の墓」は京野の山頂に祀られている、鎌倉時代に築かれた「塚(墓所)」です。大きさは巾10.4m・盛り土の高さ1.4mで、形状は全体に丸みを帯びた方形で、表面全体に築墓当時の葺石が遺っています。

塚から採集の遺物は、鎌倉時代中期の古瀬戸、四耳壺(しじこ)片・灰釉椀(かいゆわん)など10点以上が発見され、この塚の時代背景を伝えています。

「山吹姫の塚」は、山吹姫の墓「一石五輪塔」(5)祭祀の歴史に伴う重要な「経塚」で、村内に遺る最古の塚遺跡です。

「山吹姫の一石五輪塔」で示したようにこの塚は、鎌倉時代の地域を学ぶ大切な遺跡資料です。

村指定 史跡 合原の「伊賀塚」



「伊賀塚」は合原の地名大日原下段の平地、畑の中に祀られている、室町時代の武将を祀る塚です。

形状は7.5m・5.0mの楕円形、高さ2.2mの盛り土で築かれ丸みを帯びた長方形には、削られた跡もあるが塚の頂上には、高さ55cm・巾22cmの石碑が、石造の台座上に祀られており、その正面に「奉納大乘妙典十六部」左面に、「三十三番神九□七□」が刻まれ、江戸時代の建立と思われます。経筒(14)はこの台座に刻まれる、石槨(せっかく)に収められていた歴史を伝えます。

伊賀塚の歴史について示しますと、伊賀塚の「伊賀」とは、室町時代古城を護っていた下條氏の一人が後に、吉岡城主下條氏に仕えて合原に住み、「合原伊賀」を名乗った武将で死後、塚を祀り「伊賀塚」と伝えた歴史で、村内に遺る塚、二基の一基であり大切な遺跡です。

下條村指定文化財史跡

国指定重要文化財

番号	種 別	名 称	所在地	マップ
1	重要文化財	建造物	大山田神社 相殿二社殿	鎮西 大山田神社

県宝指定

番号	種 別	名 称	所在地	マップ
2	県宝	彫刻	阿弥陀如来坐像	合原 阿弥陀堂
3	県宝	絵画	白隠禅師「隻履之達磨」	鎮西 萬松山龍嶽寺



菅野方面から眺める「下條山脈」全景

村指定文化財

番号	種 別	名 称	所在地	マップ
4	有形文化財	建造物	下條頼氏の墓塔	鎮西 萬松山龍嶽寺
5	有形文化財	建造物	山吹姫の墓「一石五輪塔」	山田河内
6	有形文化財	建造物	大山田神社本殿	鎮西 大山田神社
7	有形文化財	建造物	入登山神社里宮本殿	入野 入登山神社
8	有形文化財	建造物	王関神社本殿	仁王関 王関神社
9	有形文化財	古文書	下條氏文書 十五通	鎮西 萬松山龍嶽寺
10	有形文化財	古文書	八幡宮御朱印状 九通	鎮西 入登山神社
11	有形文化財	典籍	雪岫瑞秀和尚語録	鎮西 萬松山龍嶽寺
12	有形文化財	絵画	巖頭猛禽図	親田
13	有形文化財	絵画	猛虎の図	下條村教育委員会
14	有形文化財	工芸品	伊賀塚の経筒	合原
15	有形文化財	工芸品	大山田神社八幡宮 八郎明神御祭礼の図	下條村教育委員会
16	有形文化財	工芸品	甲子祭祀図	下條村教育委員会
17	有形文化財	工芸品	山犬退治の図	入野 入登山神社
18	有形文化財	工芸品	圓通軒の鰐口	吉岡 圓通軒観音堂
19	無形民俗文化財	芸能	ギョウド 獅子舞	鎮西 大山田神社
20	無形民俗文化財	芸能	屋台獅子 神楽獅子 祇園囃子	山田河内 神明社
21	無形民俗文化財	芸能	下條歌舞伎	下條村教育委員会
22	無形民俗文化財	風俗習慣	御射山社 穂屋の神事	北又 御射山社
23	天然記念物	植物	大山田神社の大杉	鎮西 大山田神社
24	天然記念物	植物	龍嶽寺の櫟(いちい)	鎮西 萬松山龍嶽寺
25	天然記念物	植物	上ノ平の篠木	仁王関
26	天然記念物	植物	吉岡城址の「百日紅」	吉岡
27	史跡	墳墓	京野塚 山吹姫の塚	山田河内
28	史跡	墳墓	伊賀塚	合原